

実践④ いちき串木野市立川上小学校

1 はじめに

本校は桜の名所である観音ヶ池公園の近くに位置し、児童数19名、3学級編成の小規模複式校である。読書指導をはじめとして、英語教育・食農教育・ICT活用の4つの活動を「川上ブランド」として位置付け、特色ある教育活動を展開している。

本校の読書指導や図書環境は以前より充実しており、平成29年度には全九州学校図書館コンクールで優秀賞、今年度の県図書館大会では子ども読書活動推進優良校表彰を頂いた。児童も図書室が大好きで、足しげく図書室に通い、本を借りたり、本について友達と話したりする姿を日常的に見ることができる。そのような実態のもと、昨年度からそれまでの図書環境を生かしながら、「本に親しみ、自ら学びに生かす児童の育成」を研究主題として、国語科に限定せずに各教科等での図書を活用した授業の構築などについて研究を進めている。

2 研究の内容

研究内容1	子どもの「もっと知りたい」を育む各教科等の授業の構築
① 各教科等での授業における図書活用の在り方の分類	
② 図書を活用した授業実践につながる「活用リスト」の作成 …… 学校図書館と学習をつなぐ実践	
③ 公立図書館と連携した授業での図書活用 …… 学校図書館と公立図書館をつなぐ実践	
研究内容2	子どもの「読みたい」をふくらませる図書環境の整備、家庭・地域との連携
① 魅力的な本の紹介の工夫 …… 本のよさを紹介する視点、図書環境の整備、学習との連携	
② 本を読む機会の設定 …… 「読書タイム」「家読の日」「音読戦隊川上ヨメルンジャー」	
③ 保護者や地域を巻きこんでの連携の工夫 …… 「お話カンガルー」「親子読書週間」	
④ 図書室環境の充実 …… 学習スペースの確保、情報センター化	
研究内容3	子どもが「楽しい」と感じながら読んだり伝えたりする交流活動の工夫
① 本の楽しさを感じさせるための工夫 …… 「子ども読書」「親子読書」、認められる機会の設定	
② ビブリオバトル大会 …… 川上フェスタでの実施（保護者、地域住民等が審査者）	

3 家庭や地域と連携した読書活動の実践

(1) 放課後子ども教室における「お話カンガルー」の読み聞かせ、ミニビブリオバトル大会

校時表を見直して活動時間を生み出し、毎週木曜日の放課後に「お話カンガルー」による読書活動を実施している。保護者や地域住民だけでなく、広く地域企業や公立図書館等にも呼びかけて協力をもらい、読み聞かせやミニビブリオバトル大会を行っている。お話カンガルーのメンバーは約20名で、様々な方が多様な立場や思いをもって読み聞かせをしてくださるため、子供たち、読み手の双方にとって互いにより刺激になっている。

また、ミニビブリオバトル大会を開くこともあり、本の紹介の仕方や伝え方等を楽しみながら学ぶ機会にしている。読み聞かせ後には、本の内容を振り返られるようなクイズ、児童が本の感想や絵、言葉から感じたこと、気付いたことなどを発表し合い、交流できる機会等を行っている。

コミュニティースクールとしての役割も担った開かれた学校づくりに貢献する活動となっている。



【保護者による読み聞かせ】



【地域企業による読み聞かせ】

(2) ビブリオバトル大会

ビブリオバトルとは、本の紹介者が順番に制限時間内に自分のお気に入りの本をアピールし、どの本を一番読みたくなったかというチャンプ本を決める読書活動である。本校は平成25年度から校内ビブリオバトル大会を行っている。

毎年11月に実施している川上フェスタでは保護者や地域住民を招いた全児童による校内ビブリオバトル大会を実施し、読んだ本について自分の思いを発表する機会としている。

ビブリオバトルには、「自分の好きな本を紹介すること」自体が楽しいというよさがある。人前で発表が苦手な子も、うまく話題を見つけられない子も、好きな本のことなら気持ちが楽になり、素直に自分の気持ちを語ることができる。また、紹介する本のよさを分かってもらうために話す内容や話し方を工夫して、自分の思いが伝わったときの喜びはとても大きい。また、参加者も発表を聞くことを通して、新しい本だけではなく、発表者の人となりを知ることができる。「発表する人はどんな本を選んだのか」「どんな感想をもったのか」等と興味をもって聞くことで、児童への理解を深めたり、新たな一面を見付けたりすることができる。児童・保護者・地域住民の相互理解と交流にも寄与する機会として位置付け、取り組んでいる。

校内ビブリオバトル大会で紹介された本はどれも人気になることから、子ども同士でその本について話している姿をよく見かけ、家庭での話題にもなっている。



【ビブリオバトルでの本の紹介】



【発表者に対しての質問】

(3) 親子読書週間

家庭での読書を啓発し、親子で読書に親しんでもらう目的で、毎学期1週間、「親子読書週間」を設定している。日頃は、親子でゆっくり読書に向き合う時間がとれない家庭もあるが、この1週間は意識して取り組んでもらい、親子読書のよさを味わいながら、本を通しての親子の交流などが図れるようにしている。



【親子読書の様子】

(4) 家読（うちどく）の日

また、児童が家庭で読書に向き合える機会を設けたいと考え、毎月第2土曜日を「家読の日」としている。家庭学習の課題を減らし、読書にじっくりと向き合える時間を確保した。家読カードに読んだ本のあらすじや感想を書き、保護者からのコメントも添えられるようにしている。なお、「おすすめランク」等の欄を設け、図書コーナーに掲示されたカードが本の紹介や児童間の交流にもつながるようにした。

4 おわりに

これまでの取組により、学習の中で図書を自ら活用する児童の姿が多く見られるようになり、図書の有用性を感じているようであった。

また、お話カンガルー等で保護者や地域住民、企業等多様な人に関わっていただいたことで、児童の読書経験や読書の幅を広げることができた。本を通して、学校・児童とのより密接な関係を構築することにもつながった。

